

西尾市民病院
中期計画等評価委員会意見集

西尾市民病院

令和2年2月20日

目 次

- 1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について . . . 1
 - 2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について . . . 1
 - 3 西尾市民病院中期計画等評価委員会の開催状況について . . . 1
 - 4 各委員からいただいたご意見に対する実施状況について . . . 2～3
 - 5 今後の予定について . . . 4
- ※ 参考資料（委員からのご意見等について）

1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について

西尾市民病院中期計画（以下、「中期計画」という。）は、平成26年度、当院が地域に求められる医療を安定的かつ永続的に提供していくための基本方針として定め、市民参画のもと、西尾市中期計画策定委員会で策定されたものです。

改革プランは、平成27年度末に、国から公表された公立病院改革ガイドライン（以下、「ガイドライン」という。）に従って策定されたものです。

内容は、愛知県の地域医療構想との整合性を図りつつ、中期計画の基本方針を補完する具体的な事務事業を定めたものです。

策定後の進捗状況の点検・評価について、ガイドラインでは、市民参画のもと検討することが望ましいとされているため、西尾市民病院では、中期計画等評価委員会を設置し、ご意見をいただくこととしました。

2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について

平成30年度は、平成29年度末時点での改革プランの進捗状況の点検や評価を行いました。しかし、「医師の意見が反映されていないのでは」とのご意見をいただいたため、次年度への継続審議となりました。令和元年度は、平成29年度と平成30年度の改革プランの進捗状況について、医師の意見も踏まえた上で、点検や評価を行いました。

3 西尾市民病院中期計画等評価委員会の開催状況について

○平成30年度

第1回会議	平成30年	7月19日
第2回会議	平成30年	11月29日
第3回会議	平成31年	1月17日
第4回会議	平成31年	1月31日
第5回会議	平成31年	2月21日

○令和元年度

第1回会議	令和元年	6月27日
第2回会議	令和元年	9月26日
第3回会議	令和元年	11月28日
第4回会議	令和2年	2月20日

4 各委員からいただいたご意見に対する実施状況について

実施状況	平成30年度	令和元年度
実施済 ※一部実施済を含む	9件（60.0%）	14件（63.6%）
検討中	3件（20.0%）	6件（27.3%）
実施せず	3件（20.0%）	2件（9.1%）
計	15件（100.0%）	22件（100.0%）

◎主な意見に対する実施状況（参考資料抜粋）

【意見1】 市民病院で、“○○できます”の具体的な内容がPR不足のため市民に伝わっていない。「新しい医師が・・・」と口伝えに聞くことがあり、もったいない、広報にしておで繰り返し、新分野の診療内容や、得意分野のPRをしていくとよい。

（回答） これまでにも、毎月16日号に「市民病院Q&A」、偶数月の16日号には「市民病院通信」として、なるべくタイムリーな記事やPR記事を掲載しております。今年度は、新たに病院PR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。

【意見2】 投資は必要だが、先進的な医療器具を導入してはどうか。

（回答） 令和元年度は、乳房用X線診断装置の更新に併せ、乳がんドックに参画しました。また、令和2年度は、より精細に病変を把握できるデュアルエネルギーCTを導入する予定です。
こうした先進医療機器を導入した際には、好評をいただいている当院のPRチラシに情報を盛り込み、全戸配布するなど市民の皆様に直接届くような方法で周知を図ってまいります。

【意見3】 改革プランの進捗状況のうち、医師不足またはそれに準じた事項での未達成事項が多く見受けられます。病院経営の健全化を目指すよう、適切な対策を早急に講じていただきたい。

（回 答） 医師確保に向け、医師派遣会社の活用、大学や愛知県への働きかけなどは継続して行っております。医師確保策としても有効な方法の一つである寄附講座につきましては、現時点では実現できていません。

今後も、医師確保の可能性のあるものには、積極的に取り組んでまいります。

【意見4】 安城更生病院（3次高度急性期病院）を中核とした地域医療連携推進法人設立に向けて積極的に協議・折衝し、地域医療連携推進法人を実現する。設立後は、市民に対しメリットを啓蒙する。

同時に安城更生病院に対し、医師の交流・派遣、事務職の交流派遣、寄附講座についての協議、病床再編の議論を進める。

（回 答） 地域医療連携推進法人に関する当院の考え方は、医師の派遣をはじめとして、職員の交流や材料の共同交渉なども可能とされていることなどから、当院を存続させる一つの方策として、有効と判断しています。

今後、この方策を含め、それぞれの病院のさらなる発展に向けた意見交換等の実施を考えてまいります。

【意見5】 昨年8月3日の夕方「イッポウ」という番組で津島市民病院が2017年から黒字になる見通しという内容が放送されました。その要因は診療報酬が高いHCUの導入ということでした。西尾市民病院のプランにも取り上げられていましたが、進捗状況では取り下げになっています。それぞれの市の状況は違うと思いますが、西尾市にとって、収益向上につながる一番のプランは、多くの項目の中でどの内容が有効なのかと考えさせられました。

（回 答） 当院がHCUの導入をするには、国の基準を満たす必要があります。現在の基準では、当院が優先している地域包括ケア病棟の2病棟体制と、HCUの設置が併用できないことになっておりますので、現時点におきましては、中断の判断をさせていただきました。また、改革プランの中で、収益向上に向けた取り組みは、最重要の位置づけから、多くの取り組みを掲載させていただいており、当然、そのいずれもが有効と判断したものです。しかしながら、その多くは医師の確保が前提とされているため、計画どおりに医師の確保が進まないことには、取り組みの効果は享受できません。したがって、引き続き、医師確保に努めてまいります。

5 今後の予定について

西尾市民病院改革プランの対象期間は、平成29年度から令和2年度までの4年間としております。

現時点では、令和2年度に国から新たなガイドラインが出される予定であるため、国のガイドラインに従い、新しい改革プランを作成する必要があります。これまでに委員のみなさまからいただきました貴重なご意見を参考に、新しい改革プランを作成させていただく予定をしております。

【平成30年度西尾市民病院中期計画等評価委員会】委員からのご意見について

参考資料

番号	取り組み項目	委員からいただいたご意見	実施状況	実施状況の詳細	
1	1 収益向上に向けた取り組み	(4) HCU(ハイケアユニット)病床の新設	実施せず	当院がHCUの導入をするには、国の基準を満たす必要があります。現在の基準では、当院が優先している地域包括ケア病棟の2病棟体制と、HCUの設置が併用できないことになっておりますので、現時点におきましては、中断の判断をさせていただきます。また、改革プランの中で、収益向上に向けた取り組みは、最重要の位置づけから、多くの取り組みを掲載させていただいており、当然、そのいずれもが有効と判断したものです。しかしながら、その多くは医師の確保が前提とされているため、計画どおりに医師の確保が進まないことには、取り組みの効果は享受できません。したがって、引き続き、医師確保に努めてまいります。	
2		(5) 専門外来の開設・強化	実施せず	一般的に診療報酬の高い診療科は、手技(技術)による点数の高い診療科ということになり、具体的には心臓外科や脳神経外科ということになると思います。しかし、現時点で常勤医師が不在あるいは不足の診療科(泌尿器科、産婦人科、神経内科)がありますので、これらの充実を図ることが先決と考えます。	
3		(11) 医師の確保	市民病院に市内開業医が週一度、休日診療所の様に協力可能な医師の診察日を設ける。	実施済	かねてから医師会員におかれては、時間外の診療協力をいただいております。そのことに加えて休日診療所の運営も行っていただいておりますので、これ以上のご負担をしていただくことは困難と思われれます。
4			市民病院の経営悪化については、市民周知となっており、医師不足と経営改善のために有名な医師を確保したとしても市民の理解は得られるのではないかと。今後進むべき方向に合う人が良い。	実施せず	公立病院のため給与の制限があり、有名な医師の確保は難しい面があります。経営改善に対しては、常勤医師が不在で診療制限している診療科の医師など、必要な医師の確保を最優先に取り組んでまいります。
5			病院の健全化並びに現在休止中の診療科についての診療開始を早急に目指すよう、医師不足を早急に解消していただきたい。	一部実施済	依然として医師の確保は大変厳しい状況ではありますが、少しでも改善を図るため、医師派遣会社の活用により、一部の業務を担っていただいております。今後も医師確保に向け取り組んでまいります。
6			改革プランの進捗状況のうち、医師不足またはそれに準じた事項での未達成事項が多く見受けられます。病院経営の健全化を目指すよう、適切な対策を早急に講じていただきたい。	一部実施済	医師確保に向け、医師派遣会社の活用、大学や愛知県への働きかけなどは継続して行っております。医師確保策としても有効な方法の一つである寄附講座につきましては、現時点では実現できていません。今後も、医師確保の可能性のあるものには、積極的に取り組んでまいります。
7			30年度は寄附講座開設検討となっておりますが、検討状況はどうなっているのでしょうか。進捗状況では読み取れないように思いますが、医師の確保があらゆる改革プランの達成につながると考えられるので、早急な取り組みが必要と思います。	検討中	寄附講座について大学と話をした経緯はありますが、当院の希望と大学医局の体制などもあり、寄附講座の開設には至っておりません。今後とも大学医局との連携を密にし、機会があれば寄附講座の開設に向け取り組んでまいります。
8			西尾市民病院に魅力がないのであれば、その部分の取り組みが必要ではないか。医師が確保できる魅力的な病院であれば市民も来るようになり、経営状態の改善につながるのではないのでしょうか。	一部実施済	医師にとって当院は、大都市圏と比較して利便性では不利ですが、住環境では恵まれているのではないかと思います。また、医師不足の状態にありますが、それでも形成外科のように近隣の医療機関にはあまりない診療科もあり、また、研修医が幅広く診療に関わることができるなど、決して魅力がないとは思っておりません。今後ともホームページを始め臨床研修病院合同説明会でのPRなど、積極的に取り組んでいます。
9			(市民公開講座拜聴) 寄附講座や県地域医療支援センターより医師の派遣を受けることで、病院として、テーマを持つことは必要と思われる。	検討中	医師の派遣を受けるためには、テーマは必要であり、寄附講座については「研究テーマ」、県地域医療支援センターの医師派遣については「地域医療」がテーマとなりますが、それぞれ、医師を惹き付けるだけの魅力ある特徴が必要であると考えております。当院は、1人当たりの症例数が多く、多くの経験を積むことができること、また、地域医療を担う救急外来は受入れ件数が多いことなどが特徴であります。
10			(17) 戦略的な広報の展開	実施済	これまでにも、毎月16日号に「市民病院Q&A」、偶数月の16日号には「市民病院通信」として、なるべくタイムリーな記事やPR記事を掲載しております。今年度は、新たに病院PR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。
11	1 収益向上に向けた取り組み		(市民公開講座拜聴) 患者の死に寄り添える医療はどうあるべきかを研究課題として取り組む病院としたらどうか。 医師にも市民にも魅力のある病院となるのではないかと。	一部実施済	急性期医療とともに、終末期の医療の在り方について、厚生労働省のガイドラインに基づいて、患者さんとの相談に取り組んでおります。
12			リンクを目にした。 病院が実践したことや、その状況、成果は、その都度報告・配布すると、病院側の努力や姿勢が伝わると思われる。	実施済	これまでにも、毎月16日号に「市民病院Q&A」、偶数月の16日号には「市民病院通信」として、なるべくタイムリーな記事やPR記事を掲載しております。今年度は、新たに病院PR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。

番号	取り組み項目		委員からいただいたご意見	実施状況	実施状況の詳細
13	2 適切な費用管理に係る取り組み	(3) 医療機器等購入計画の策定	投資は必要だが、先進的な医療器具を導入してはどうか。	実施済	令和元年度は、乳房用X線診断装置の更新に併せ、乳がんドックに参画しました。また、令和2年度は、より精細に病変を把握できるデュアルエネルギーCTを導入する予定です。 こうした先進医療機器を導入した際には、好評をいただいている当院のPRチラシに情報を盛り込み、全戸配布するなど市民の皆様へ直接届くような方法で周知を図ってまいります。
14	4 患者サービスの充実	(1) 患者満足度の更なる向上	全スタッフが危機意識を持ち、患者に寄り添う気持ちで声掛けや対応することで、病院の評価は上がる。特に高齢化社会になっていく時代なので、親身に接してくれるスタッフがいる病院として、人を呼び寄せることができると思われる。	実施済	患者さんに親身に接し、患者さんに常に寄り添う姿勢は、病院の満足度向上や病院の評価の向上にとって必要不可欠な要素の一つと思います。 病院全体として取り組むため、医師や看護師などの多職種による満足度向上委員会を設置し、研修会の開催やアンケート調査による実態把握に努めております。今後とも、一層の満足度向上に向け取り組んでまいります。
15	第6章 経営形態見直しについて	-	今後、方向性3の条件で協議が進められることになっても、10年後を見据えて市民病院の建て替えの条件などビジョンを並行して策定していく必要があると思います。 ・救急医療体制は維持する。 ・規模を縮小する。	検討中	今後、本市では高齢化の進展が予想されており、また、近隣病院との競合度も高まる方向にある中で、当院を受診する患者像は大きく変化してくるものと思われます。 こうした状況を踏まえ、市としましては、引き続き、市民病院を継続し、17万市民の救急医療を担っていくためにも、効率化の観点から患者数に見合った規模へ見直しすることも排除せず、幅広く望ましい在り方の研究を進めてまいりたいと考えております。

【令和元年度西尾市民病院中期計画等評価委員会】委員からのご意見について

参考資料

番号	取り組み項目	委員からいただいたご意見	実施状況	実施状況の詳細	
1	1 収益向上に向けた取り組み	(3) 退院後訪問指導体制の強化・拡充	看護師不足解消の手立ては？ 西尾市民病院で働く看護師は、激務、時間が合わない等、働きにくいイメージがある。退院後訪問指導中心の業務とわかっていれば、日中のみで臨時職員を望む人には働きやすいのでは？	一部実施済	看護師不足解消のため、臨時職員の任用にあたっては、対応可能な範囲で希望時間に沿った任用を行っております。 (退院後訪問指導については、No.4で回答)
2		今後の高齢化の急速な進展から、退院後訪問指導は大変重要と思われる。実際の訪問件数が目標120件に対して16件と少ない。看護師不足が原因とあるが、何とか優先事業として進める必要があると思われる。	検討中	計画策定時よりも看護師が大きく不足することとなったため、目標を達成できない状況となっております。収益向上に向けた取り組みとして掲げた項目であり、新たに臨時職員を雇用し実施することについては、費用面を含め精査する必要があります。	
3		(11) 医師の確保	新たに取り組みとして挙げている寄附講座についての現状は？	検討中	寄附講座について大学と話をした経緯はありますが、当院の希望と大学医局の体制などもあり、寄附講座の開設には至っておりません。 今後とも大学医局との連携を密にし、機会があれば寄附講座の開設に向け取り組んでまいります。
4		医師が少ない中で、企業や地域医療との交流は、負担と思われるが、将来を見据え、西尾市の中心となる病院として努力してほしい。地域医療の中心となることで、自然と高度な医療技術を求められるので、医師やその他の者もモチベーションが上がるのではないかな。	実施済	委員のおっしゃるとおり、西尾市の中心となる病院として地域医療を担うことは大切であると考えております。 現在も地域の医療機関との連携や市民を対象とした市民公開講座の開催など、地域の皆さまのため、地域に根差した取り組みを行っておりますが、今後とも継続的に取り組んでまいります。	
5		主要5科(内科・外科・小児科・産婦人科・整形外科)の充実。特に小児時間外外来の充実と可能であれば産科の再開。 ※第7次西尾市総合計画から 「安心して子育てをすることができ、子どもが地域で健やかに成長していきます。」 →夜間に救急外来を受診できないと、西尾市総合計画との間に齟齬が生じる。	検討中	市民の皆さまの要望の多い産科の再開は、当院にとっても悲願ではありますが、分娩の再開のためには最低3名の常勤医の確保が必要になるなど、現時点においては大変厳しい状況であります。また、小児科につきましても医師派遣をお願いしておりますが、分娩の無い病院への派遣は非常に難しい状況にあって増員できていません。 このような状況におきましても、地域住民の健康を保持するため、非常勤の医師の派遣をお願いし、できる限り診療できるように努めておりますので、ご理解願います。	
6		常勤の専門医がいなくて患者として行くのをためらう。	一部実施済	常勤の医師が確保できていない診療科があることは事実で、その点でご心配をおかけしております。常勤医不在の診療科については、大学医局からの派遣医師で診療を続けており、今後も外来診療を閉ざさないよう努めるとともに入院などに対応できる常勤医の確保に努めてまいります。	
7		(15) 紹介件数の向上	紹介件数の向上については、熱心に取り組まれているが、登録医療機関があまり増加せず、ネットワーク診療予約や画像検査予約も0件と低調。医師会連携等により目標達成に向けて努力をお願いしたい。	一部実施済	引き続きネットワークへの参加を呼び掛けてまいります。
8		地元開業医からの紹介率・逆紹介率向上の努力	実施済	入院対応ができない診療科についてお断りとなる場合も多く、開業医の皆様にはご迷惑をおかけしている場合も多々あります。できるだけ紹介患者の受け入れができるよう、引き続き医師確保に努めてまいります。	
9		(17) 戦略的広報の展開	どの科も外来時間、救急対応時間がわかりにくい。 ホームページも難しい言葉が多く、体調が悪くなくても結局はどこに行けばよいのかわかりにくい。	実施済	ホームページをリニューアルし、1月から公開します。
10		ホームページがわかりにくい。医師を身近に感じられるHPを心掛けてほしい。	実施済	ホームページをリニューアルし、1月から公開します。	
11	1 収益向上に向けた取り組み	(17) 戦略的広報の展開	広報を利用した市民病院通信は、本等では調べられなかった内容が記載されており、「市民病院が出来る医療を具体的に知る」「この取り組みをしている病院なら」と市民病院への信頼に繋がった。市民へのPRとしては効果的だった。HP閲覧については、市民公開講座資料があれば、それを載せるのも手間がかからないのでは。	検討中	今後も病院から患者さんに、役立つ情報を発信したいと考えております。市民公開講座ですが作成者から了承を得られた資料に関しましては公開を考えていきたいと思っております。
12		新しい取り組みが年配の人にも伝わるよう「病院トピックス」を発行したらどうか。	実施済	これまでも、毎月16日号に「市民病院Q&A」、偶数月の16日号には「市民病院通信」として、なるべくタイムリーな記事やPR記事を掲載しております。今年度は、新たに病院PR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。	
13		何かあった時に「まずは西尾市民病院」と思ってもらえるように努力(現状では、市民も開業医もそういった意識に乏しい)	一部実施済	市民へ病院を知っていただくためにPR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。 また、開業医との関係についても紹介・逆紹介を含め連携を図っていきます。	
14		口コミが一番効果的だと思われるため、ぜひ知っていて欲しいことを、当委員会やほかの会で伝えるようにしたらどうか。	実施済	毎年開催の市民病院について語る会では、参加された市民に対して、当院の診療科や医療機器の紹介を行いました。 各種情報媒体を用いた病院PRについては、病院PR誌を11月に広報折込とし全戸配布しました。今後も定期的な広報を展開していきます。	

番号	取り組み項目	委員からいただいたご意見	実施状況	実施状況の詳細
15	3 経営基盤・管理体制の構築	(2) 災害拠点病院としての体制強化 (戦略的広報の展開)	自動販売機の災害時対応の件は評価できる取り組みであり、市民に周知すると良い。	一部実施済 市民病院では、災害時に必要となる患者や職員用の食糧や飲料の確保については、国の基準に従っております。ご意見にありました自動販売機の災害時対応は、民間業者と連携した当院独自の取り組みでありまして、今後も、こうした連携は拡充していきたいと考えております。 災害に備えた当院の取り組みについては、市民の皆さんに安心していただけるように、市民に参画していただく会議や、出前講座、あるいは、さまざまな情報媒体を通じて周知してまいります。
16	4 患者サービスの向上	(1) 患者満足度の更なる向上	受付の物言いが強くと患者が不安になったという話を聞いた。	実施済 接遇は大変重要であり、接遇研修の実施の他、医師や看護師などの多職種による委員会を設置し、患者満足度向上に取り組んでいます。今後とも満足度の高い病院を目指してまいります。
17		(2) 医療通訳者の配置	近年はベトナム国籍の人が増加しているため、その対策も必要だと思われる。	実施済 ポケトーク(携帯型翻訳機)3台を導入しました。
18		(3) 待ち時間対策の強化	子どもの行動は予定を立てて行いたい、小児科予約システムは必須だと思う。	実施せず
19	子どもが長時間待てるような待合室だと良い。		実施済	子供向けの待ち時間対策としては、図書館から絵本を提供していただくなど、本のラインナップを見直し、飽きない工夫をしました。 また、大人向けには、来年度からは、定期的に生活雑誌を購入し、書棚に整備する予定です。 本以外の待ち時間対策としては、Wi-Fi環境の継続及び拡充について研究して参ります。
20	第5章 再編・ネットワーク化について	-	安城更生病院(3次高度急性期病院)を中核とした地域医療連携推進法人設立に向けて積極的に協議・折衝し、地域医療連携推進法人を実現する。設立後は、市民に対しメリットを啓蒙する。 同時に安城更生病院に対し、医師の交流・派遣、事務職の交流派遣、寄付講座についての協議、病床再編の議論を進める。	検討中 地域医療連携推進法人に関する当院の考え方は、医師の派遣をはじめとして、職員の交流や材料の共同交渉なども可能とされていることなどから、当院を存続させる一つの方策として、有効と判断しています。 今後、この方策を含め、それぞれの病院のさらなる発展に向けた意見交換等の実施を考えてまいります。
21	-	-	電子カルテ等の長期にわたって使用するシステムの更新については、碧南市民病院との連携を踏まえた導入を行うようお願いしたい。	実施せず 碧南市民病院のシステムと当院のシステムは更新時期が異なることから簡単に統一できない状況です。
22	第6章 経営形態見直しについて	-	西尾市民病院内部で診療科の統廃合・整理、病床の転換を進める。 専ら代務の医師に頼る診療科の思い切った整理	検討中 県の医療計画や地域医療構想と整合を図りつつ、引き続き、当院を存続し、17万市民の救急医療を担っていくために、患者数の動向や診療域の需要など外部環境に注視し、当院に見合った在り方の研究を進めてまいります。